

## ナガバジュズネノキ

*Damnacanthus macrophyllus* Siebold ex Miq. form. *giganteus* (Makino) T.Yamaz.

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 14。暖地性の低木で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地も個体数も少ない。

### 【形態】

常緑性の低木。高さ 0.7~1.5m になる。根は細長い数珠状に肥厚する。葉は対生し、短い柄があり、葉身は長楕円状披針形~狭楕円形、長さ 7~13cm、幅 2~4cm、先端は鋭頭、基部も鋭形、辺縁は全縁、両面無毛である。葉の基部には短い刺があることが多いが、ないこともある。花期は 4~5 月、花は枝先または葉腋に出る短い花序に 2 個ずつつき、下向きに咲く。花冠は白色、筒部は長さ約 9mm、先は 4 裂し、裂片は三角状卵形で先端がややとがり、長さ約 2mm である。果実は液果で球形、直径 3~5mm、赤熟する。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：2 豊根 (小林 43419, 1993-5-29)、8 鳳来北東部 (小林 50127, 1994-3-20)、15 豊橋北部 (小林 55783, 2005-2-11)。尾：37a 瀬戸 (芹沢 82774, 2007-11-3)。

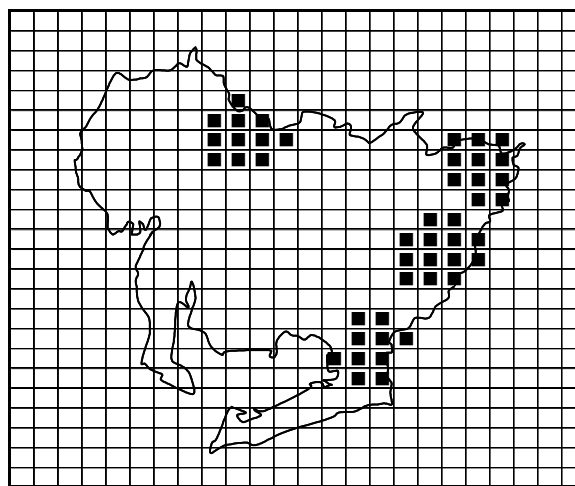
#### 【国内の分布】

本州 (愛知県および静岡県西部以西)、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本固有品種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

暖地の照葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

4 区画の各 1 カ所で確認されているだけで、どの場所も個体数は少ない。林床性の低木なので、伐採などにより林が破壊されれば絶滅する可能性が高い。園芸目的で採取されることもある。

### 【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。

### 【特記事項】

アリドオシ類の中では、最も葉が大きい。

### 【関連文献】

保木本 I p.59, 平木本 II p.200, 平新版 4 p.270, SOS 旧版 p.73.